

**現代のユートピア文学・思想**

准教授 小澤 央

**1. 研究内容**

この演習室では、主に英語圏の「ユートピア」文学・思想を研究します。「ユートピア」(Utopia)という言葉は英国の人文主義者トマス・モアの代表作『ユートピア』(1516年)に起源があります。元々は「どこにもない場所」を主に意味しましたが、時代が下るにつれ「理想郷」という意味で用いられることが一般的になりました。理想郷とは反対の「暗黒郷」を指す言葉として「反ユートピア」「ディストピア」という言葉もあります。20世紀以降、世界大戦や全体主義、冷戦やテロの恐怖など、大規模な悲劇が相次いだため、むしろ「反ユートピア」を描く作品(未来小説やSF映画など)の方が主流となりました。

本演習室では、英語圏のユートピア(反ユートピアも含む)を研究対象とし、個々の作品の背景にある政治的・文化的文脈を把握しつつ、比較文化的視点から日本の文学・思想についても注意を払い、多角的な解釈を試みます。それを通じて、今日の私たちを取り巻くさまざまな問題(例えば、異なる価値観を持つ人々がいかに共存しうるかなど)について深く考えることを目指します。

**2. ゼミの進め方**

2年次：ユートピアに関連するテキストを精読し、(可能であれば)映画を鑑賞します。毎回担当者は、該当範囲を自力でまとめたレジュメを作り、発表します。合宿は行いません。

3年次：個人または集団でテーマを設定し、研究します。研究成果について定期的に報告し、エッセイとしてまとめます。合宿は行いません。

4年次：卒業論文を作成します。テーマは、ユートピアと関連するものであれば何でも良いです。個別の指導が中心です。合宿は行いません。

**3. 教材**

ユートピア一般の入門書として、川端香男里著『ユートピアの幻想』(講談社、1993年)、グレゴリー・クレイズ著、巽孝之監訳、小畑拓也訳『ユートピアの歴史』(東洋書林、2013年)を指定します。その他の参考文献については、授業中に適宜紹介します。

**4. 成績評価の方法**

演習への貢献度(発言・発表の回数や質)、レポートや論文の出来栄などを総合的に考慮します。

**5. ゼミ入室試験(選考方法)**

選考方法につきましては、Oh-o!Meijiにて、後日連絡します。

**6. その他・志願者へのメッセージなど**

読書が好きの方、英語圏の文化(文学、映画など)に関心がある方を歓迎します。英語自体を勉強したい方より、この演習室のテーマについて考察したい方を求めています。